ランチオンセミナー

「アーユルヴェーダに学ぶサフランの智慧とカンサワンドの活用法 ～癒しと美のための伝統と現代の融合～」

東京農工大学大学院 博士課程在籍

L.C.I.C.I.JAPAN 代表

鈴木 陽子

アヤメ科の植物サフラン（*Crocus sativus* L.、クンクマ）は、3,000年以上にわたり染料、香料、薬草として重用されてきた。用途は食用・化粧品・伝統医療など多岐にわたり、アーユルヴェーダにおいては皮膚疾患、喘息、関節炎、消化器系疾患等に対する治療に伝統的に用いられてきた。クンクマはトリドーシャ（ヴァータ・ピッタ・カパ）を整える薬草とされ、肌の浄化や心身の調和を目的としたオイルトリートメントにも活用されている。

本講演では、このサフランと、青銅（銅+錫）製のケアツール「Kansa Wand®（カンサワンド）」に関する現代的応用について紹介する。アーユルヴェーダの実践では古くから kansa（青銅）を用いた足裏ケア器具 Kansa Vatri®が用いられてきた。Kansa Wand はその素材とケア哲学を応用し、現代のセルフケアや美容分野に向けて開発されたツールである。これら青銅を用いたツールで行うマルマ（つぼ）刺激とオイルトリートメントにより、リンパ循環促進、pH バランス調整、トリドーシャ調整に寄与すると伝えられてきた。

サフランを配合したオイルやセラムと Kansa Wand を組み合わせたトリートメントは、海外の高級スパやアーユルヴェーダ施設でも採用されている。

日本では、Kansa Wand の認定セラピスト育成に加え、歯科クリニックや高齢者ケア、和の空間を活かした応用例も展開されており、日本的な癒しの感性とも親和性が高いことが確認されている。

本講演では、アーユルヴェーダの智慧と現代応用を通じて、自然療法の新たな可能性を探る。